

# 幻に終わった、摂河大放水路

—「城東、悪水落新堀計画」より—（抜粋）

大東 道雄

## 淀川下流域の治水

畿内の治水事業で最大のものを挙げるとすれば、まず江戸中期に行われた大和川付替が頭に浮ぶ。それほどこの付替工事は長年に亘って水害に苦しむ河内の農民たちにとって積年待望されていた問題であったといえる。

その大和川付替から三十年余り経った、元文三年（一七三八年）、同じ河内の村々と摂津の東成郡の村々からなる八十六ヶ村の農民たちが結束して起した「悪水抜新堀御願」なる請願があった。

そしてこの請願運動も新堀水路の計画路線上の関係から結局は承認されなかった。そして約十年後の延享四年（一七四七年）、再び九十八ヶ村とさらに仲間を増やしての嘆願がなされたが、結果としてこの第二次請願も聞き入れられることがなかった。当時多くの農民たちの切なる願も実現することなく画餅に終わってしまった。

大和川の付替にも匹敵するほどの、この大規模な「悪水抜新堀御願」のどこに不備、問題があったのか、新堀路線の予定ルートに当る住民たちの強烈な反対があったためか、それとも大和川付替の「二番煎じ」は許さないという、幕府の意向だ

ったのか。

摂津、河内という広範囲に及ぶ地域の農民が一同に起した「悪水抜新堀御願」があったということと自体、現在知っている人は皆無であり、それらのことを物語る文書や絵図も世間に知られていないのは誠に惜しまれるべき事柄ゆえに、この度発表に及んだ次第である。

琵琶湖にその水源を発し近畿最大の流域をもつ淀川の河口に広がる大阪平野は久しく水の恵みを享けるとともに、また一方絶えずその水禍に翻弄されてきた土地であった。

特に河内の国は、その名の如く淀川や大和川から吐き出された土砂によって難波の入海が徐々に埋め立てられ陸地化してきたところで、昔から「水を制する者は良く国を治める」の例えのとおり、古くから時の為政者はこの地に充滿する水の制御に努力を払ってきたところである。

「日本書紀」によれば、五世紀の頃仁徳朝による「難波の堀江ノ開削」やまた、「茨田ノ堤や横野ノ堤」などの土木工事は、当時河内平野に流入する溢水を浪速ノ岬の西の海に放流するとともに、新しく拡かれた水田など河川による洪水や入海か

らの高潮より耕地を守るために築かれた堤防であった。

また、「続日本紀」によると、奈良時代末期の延暦七年（七八八年）和氣清麻呂の建築により、河内平野南部に滞留する古平野川などの水を桑津方面より四天王寺の南方を経て、上町台地を東西に横断し西の海に放流する大排水路の開削工事が着手された。

しかし、台地の岩盤が強固であったためか、当時の土木技術に限界があったのか、延べ二十三人という多数の工夫を役しながら、ついに失敗に終わったことは史上有名な事実である。

以後、河内に於ける水害の歴史は千年近くにも及び、江戸中期に到り、河内郡今米村の甚兵衛父子などの長年に亘る川違え運動の末、漸く幕府による付替が決り、宝永元年（一七〇四年）大和川の新路路が、柏原村付近より堺浦へと付替られたのである。

これにより、積年洪水による被害のため代々苦難に耐えてきた河内の村人達にも、やっと安堵して暮らせる時代が到来したのであったが、またその一方、その付替による弊害の発生に苦しんだ村々も出現したのであった。

この河北一帯は江戸初期の頃よりも悪水の停滞に難渋してきた所で、寝屋川上流の国松村や茨田郡の藤田村・南寺方村など悪水の排渫のため、時の庄屋や頭百姓が村の窮状を見るに忍びず独断で悪水抜樋を開設し一身を犠牲にして多くの村民を救っている所である。これらの問題とよく似た大掛かりな訴状文書が、旧淀川郡大地村の旧庄屋家に残っていたのである。

「悪水抜井路新堀」文書について

「悪水抜井路新堀」文書は、平成二十六年一月、不慮の交通事故により急逝された河内地域の著名な郷土史家であった、荻田昭次氏が所蔵されていた家伝の村方文書の中にあつたもので、鮮やかな彩色の絵図大小二点とともに十冊ばかりの一連の文書である。

荻田先生存命中よりこの文書類の存在は見聞きしていたことであつたが、この度改めて主要な部分のみ関係各位の許可を得て閲覧させてもらった（現在この荻田家文書は大阪商業大学商業史博物館に寄贈されている）。

絵図を一見すると、淀川左岸にある摂津の東成郡や河内の茨田郡など、古来より低湿地で知られるところの村々が主に新堀嘆願のグループを組織している（絵図参照）。

それでは左にその新堀願に関する文書及び絵図を列挙する。

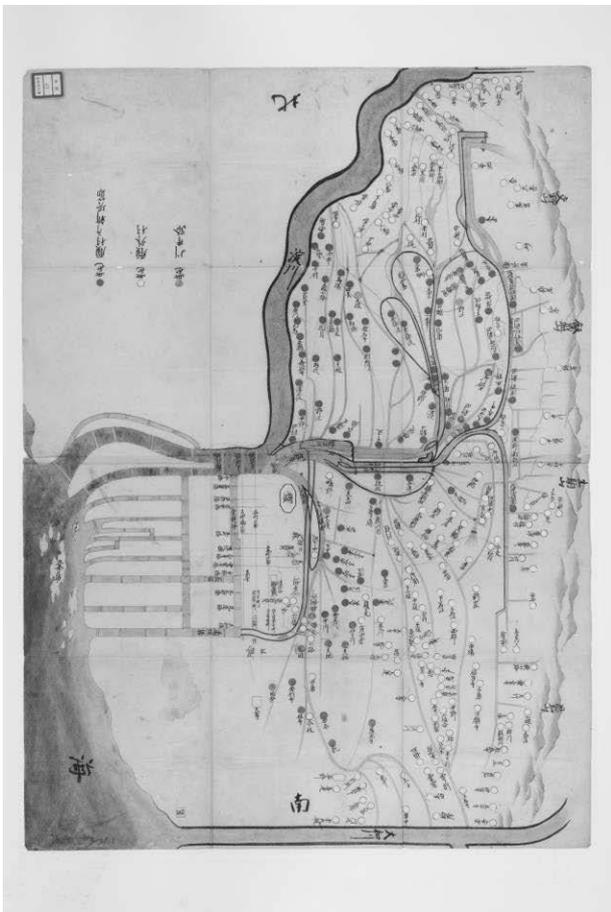
関係文書 及 絵図

- 一、悪水抜新堀御願 元文三戊午九月 一冊（二一六）
- 一、悪水落新井路願覚書 延享四年三月 一冊（二一八）
- 一、悪水抜新井路筋水盛帳 延享四年六月 一冊（三〇〇）
- 一、悪水抜新井路願堀方積帳 延享四年 一冊（三二一）
- 一、新堀普請仕様凡積帳 延享五年正月 一冊（三二二）

- 一、関、梓樋井橋仕様目論見帳 延享五年二月 一冊（三三二）

（絵図）

- 一、城東新堀川願図（大図） 一点（二四七）
  - 一、城東新堀川願図（小図） 一点（二四八）
  - 一、中浜・鳴野周辺水路図 一点（二五〇）
  - 一、鳴野村領新堀願図 二点（二五一、二五二）
  - 一、河底池十三間川絵図 各一点（二五三、二五五）
  - 一、河底池下書図 二点（二五六、二五七）
  - 一、掘割中杭計画図 一点（二五八）
  - 一、平野川新堀井路図 一点（二五九）
- （以上、大阪商業大学商業史博物館蔵、漢数字は「荻田家文書目録」の整理番号）



城東新堀川願図（大図）  
〔大阪商業大学商業史博物館蔵〕

上記原稿は、大阪商業大学商業史博物館所蔵資料である河内国洪川郡大地村荻田家文書の資料紹介を趣旨として、令和四年一月二〇日発行『大阪商業大学商業史博物館紀要』第二二号に掲載された河内の郷土文化サークルセンター相談役大東道雄氏の論考の抜粋である。  
全文閲覧をご希望の方は、大阪商業大学商業史博物館（06-6785-6139）へお問い合わせください。